

参考様式4

中沢上・中沢下地区 地域農業マスタープラン(実質化された人・農地プラン)

注: 本様式は参考ですので、地域の話合いの結果に応じて、積極的に記載する項目を追加してください。

市町村名	作成年月日	直近の更新年月日
住田町	平成26年2月	令和2年3月
対象地区名(地区内の集落名)		
中沢上集落・中沢下集落		

1 対象地区の現状

① 地区内の耕地面積	37.30 ha
② アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	19.10 ha
③ 地区内における70歳以上の農業者の耕作面積の合計	8.30 ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	4.60 ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	0.10 ha
④ 地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	4.80 ha
(備考)	

注1: ③の「〇歳以上」には、地域の実情に応じて、5~10年後の農地利用を議論する上で適切な年齢を記載します。

注2: ④の面積は、別表「(参考)中心経営体」の「今後の農地の引受けの意向」欄の「経営面積」の合計から「現状」欄の「経営面積」の合計を差し引いた面積を記載します。

注3: アンケート等により、農地中間管理機構の活用や基盤整備の実施、作物生産や鳥獣被害防止対策、災害対策等に関する意向を把握した場合には、備考欄に地区の現状に関するデータとして記載してください。

注4: プランには、話合いに活用した地図を添付してください。

2 対象地区の課題

高齢化により、耕作放棄地が増加している。専業農家として、一定の収入を得ている農家もあるが、大半が自家用栽培であり、後継者の確保が難しい。

注: 「課題」欄には、「現状」を基に話合いを通じて提示された課題を記載してください。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

新規参入を促進して、新規参入者に集積・集約化する。

営農組織等による遊休農地の解消を進める。

注1: 中心経営体への農地の集約化に関する将来方針は、対象地区を原則として集落ごとに細分化して作成することを想定していますが、その「集落」の範囲は、地域の実情に応じて柔軟に設定してください。

注2: 「中心経営体」には、認定農業者、認定新規就農者、経営所得安定対策の対象となる法人化や農地の利用集積を行うことが確実に市町村が判断する集落営農及び市町村の基本構想に示す目標とする所得水準を達成している経営体等が位置付けられます。

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針(任意記載事項)

(1) 新規就農の促進	
新規就農者の育成による後継者の確保	
(2) 耕作放棄地の発生防止	
中山間地域等直接支払交付金を活用し、耕作放棄地化を未然に防止する。	
(3)	
(4)	
(5)	

5 今後の地域の中心となる経営体の状況

(1) 経営体数

	個人・任意組合	法人
① 認定農業者	1 人	1 法人
② 認定新規就農者	人	法人
③ 集落営農組織	1 組織	法人
④ 他市町村の認定農業者	人	法人
⑤ 他市町村の認定新規就農者	人	法人
⑥ 基本構想水準到達者 ^{注)}	人	法人
⑦ 今後育成すべき農業者	4 人	法人

注：基本構想水準到達者とは、①～⑤以外の者で市町村基本構想で定める目標所得を上回っている者。

(2) 農地の集積面積

	集積面積	地域内の耕地面積	集積率
現状	4.80 ha	37.30 ha	13 %
今後	4.80 ha	37.30 ha	13 %